

徳山工業高等専門学校 情報電子工学科

徳山工業高等専門学校は昭和49年産業の多様化，複雑化する時代の要請に応え，最初に設立された全国でただ2つの複合学科を持った国立工業高専であります。西瀬戸内臨海工業地帯の中核都市，徳山市周南団地東北部の自然に恵まれた静かな高台に所在しています。専攻学科は機械電気工学科，情報電子工学科，土木建築工学科の3学科で構成されており，それぞれの境界領域を含めた専門分野において基礎理論の習熟とともに実験実習に重点をおいた教育を行ない，実技に明るく総合判断力に優れた実践的技術者の養成をめざしています。

情報電子工学科は情報工学と電子工学とをほぼ同じ重みで，かつ融合した形で習得させることを目標に，電子計算機やこれに関連する技術を利用した電子装置などに必要なソフトウェア，ハードウェア両面の技術を併行して学習できるよう教育課程を編成しています。しかし現

教育課程（下表参照）は昭和55年より検討をはじめ58年に改正したものですので，昭和62年より最近の技術発展と社会的要請にさらに対応すべく，新教育課程改正へ向かって授業内容の見直し検討に入っております。

本科電子計算機室には昭和60年UNIXマシンUX700（東芝）が設置され，科内ローカル・エリア・ネットワークが張られ，電子メール，電子掲示板，個人スケジュールなどに活用されています。

なお本校共通の電子計算機センターにおいては，昭和63年3月にNEWS(SONY)6台，VAXstation 3200(D EC)1台およびパソコンPC9800(NEC)60台をイーサネットにより学内ネットワークを構築し，教育情報データベースによる情報利用ができる運びとなっております。

（小笠原基泰）

〔情報電子工学科授業科目：分野別・学年別一覧表〕

（* 選択科目）

学年	1年	2年	3年	4年	5年
電気	基礎電気	基礎電気 交流回路 電気数学	交流回路	交流回路 電磁気学	
電子 (制御) (通信)		電子工学概論	電子回路 論理回路 計測工学	電子回路 論理回路 論理回路応用* 制御工学 I	電子工学 電子応用* 制御工学 II* 通信工学 データ伝送* 情報理論*
情報	情報工学概論 プログラミング	計算機言語	計算機言語 情報処理	計算機システム システムプログラム I	計算機システム システムプログラム II* プログラミング特論* 情報処理特論*
数学 システム			数値解析	応用数学 A 同 B 統計学	情報数学* 計画数学* システム工学* 生産システム*
関連		工業製図	応用物理	応用物理 電力工学概論*	機械工学概論*

共通			実験Ⅰ（ハード）	実験Ⅰ（ハード） 実験Ⅱ（ソフト） 工学ゼミナール	工学演習 実験Ⅱ（ソフト） 卒業研究 特別講義* 工業外国語*
----	--	--	----------	---------------------------------	---

- 備考 1. 必修科目は一般科目14科目85単位（表中省略）と専門科目28単位とが、5カ年にくさび型に組み合わされている。
2. 選択科目は高学年に16科目31単位開設され15単位以上履習しなければならない。
3. 完全な単位制でなく学年制が並存している。つまり留学生は当該学年に係わる必修科目は再履習しなければならない。

東京国際大学

東京国際大学は商学部、教養学部の学部だけの文科系の大学のため、ORの専門家というような方は少ないのですが、商学部では倉吉芳郎教授は経営科学の専門家として、学生にもビジネス・ゲームなどを教えておられます。横山一朗助教授は会計学が専門ですが整数計画法を応用した論文を書いており、ORにも関心を寄せています。ORの専門家ではありませんが、数理経済学の権威の二階堂副包教授が1987年度から本学に来られたことも特記してよいことと思います。

ORの関連分野としてはマーケティングの専門家は久保村隆祐教授、室井鉄衛教授など日本での権威がおられますが、川嶋行彦教授はSASを使ってマーケティングデータの分析を盛んにやっています。

また教養学部の志津野知文教授は1987年度から就任されましたが、博報堂で長らく市場調査、特に心理関係のデータの解析を手がけられ、マーケティングの実務にも精通しておられます。

その他の関連分野では筑波大から移って来られた目良浩一教授は都市計画論の専門家です。

もともと商科大学でしたから経営学の専門家は数名いますが、経営科学の分野では倉谷教授の他は手薄とってよいでしょう。

コンピュータは現在メインフレームとしてはIBMの4331、4361の2台、パソコンとしてはIBM5540、NECのPC9801などがありますが、教育用には商学部、教養学部とキャンパスが分れているので、各キャンパスに5540を33台設置したパソコン教室と、端末10台を置いた端末教室とがそれぞれ置かれています。

特に商学部では学生数が1学年900名近くいるため、

まだ全学生対象のコンピュータ実習は実施できず、3年、4年のゼミの学生だけに一部の教授が教育している程度です。

本学で使用可能な言語はBASIC、FORTRANのほかPL/Iですが、現在Cの導入も考慮中です。パッケージとしては前にものべたようにSASが導入されており、非常に威力を発揮しています。しかし、SAS/ORはまだ導入していません。これはSAS/ORはまだ若干問題があるといわれており、まだ評価が確立しているとはいえないので見送られています。

学生へのOR教育としては倉谷教授の経営科学の講義、同教授の演習以外にはORに関連した講義はありません。もちろん上にあげた諸教授はそれぞれの講義の中でORに関連したトピックには触れられていますし、また流通論を担当されている矢井沢 進助教授、三村 優美子助教授なども広い意味ではORに関連した内容の講義になっているといえましょう。

特異な研究をされているのは高山康男助教授で、多目標管理という分野が専門ですが、学生への講義はもちろんこんな難しいものではなく、統計学を講義されています。

以上のように本学は歴史も新しく、文科系というようなこともあって、ORあるいは経営科学の面ではまだ貧弱といわざるを得ませんが、現在既存の商学部・教養学部のほか経済学部の新設と商学部の改組を計画中で、より情報科学に傾斜した形になる予定です。コンピュータ関係もハード・ソフトとも一層の充実をめざしていますから、数年後にはある程度経営科学の分野でも成果を上げることができると考えています。（商学部 門山 允）